

広島市東部地区連続立体交差事業の「見直し修正案」に係る住民説明会の開催結果について

以下の日程で、広島市安芸区船越地区において、「見直し修正案」に係る住民説明会を開催しました。

1 開催日等

対象地区	開催日	会場	出席者数	
安芸区船越地区	平成30年3月2日（金）	安芸区民文化センター 1階ホール	約120名	約210名
	平成30年3月3日（土）		約90名	

2 主な質疑及び意見

○平成27年12月に市議会へ提出した「見直し案」に対する請願に対し、「見直し修正案」はどのように活かされているのか。

⇒引地踏切については除却し、車両制限なしの平面で通行できる。的場川西踏切は閉鎖となるが、当該踏切から海田町側約170mに車両制限なしで平面通行可能な（都）船越中央線を整備し、県道広島海田線と（都）青崎中店線を接続する。また、当該踏切から府中町側約80mに歩行者横断道路を整備する。船越踏切は除却し、鉄道を高架することでその部分において車両制限なしの平面で通行できる。新町踏切は、「見直し案」では迂回した道路となっていたが、今回の案では現位置のままで車両制限なしで平面通行できる。海田町域の呉線の大正第2、瀬野川西、東の踏切について、「見直し案」でははしご車が通行できなかつたり、歩行者しか通行できなかつたりしたが、今回の案では、はしご車が通行できる高さを確保できている。

○Ⅱ期区間の工事を必ず実施してくれるのか。

⇒「見直し修正案」で都市計画変更を行い、確実に整備していく。

○17年の工事期間のうち、何年目に船越地区の工事が始まるのか。

また、何年目に的場川西踏切が閉鎖され、その時の迂回路はどうなるのか。

⇒Ⅰ期区間は、的場川西踏切までであることから、Ⅰ期区間の工事の時には、船越地区の工事に入る。Ⅰ期区間の工事着手後、7年後に着手するⅡ期区間で、残りの船越地区の工事に入っていく。的場川西踏切の閉鎖時期は、JRと協議して決まっていく。閉鎖にあたっては、住民の生活に支障がないよう仮踏切の設置や迂回路等を考えていきたい。

○「当初計画」はデタラメなのか。的場川西踏切の利用者は多い。もう一度考え直してほしい。

⇒「当初計画」は素晴らしいものであるが、現在の状況下では実現できない。限られた予算の中で、踏切を除却し、安全なまちをつくるという事業目的が達成できる案として「見直し修正案」を検討した。的場川西踏切は閉鎖となるが、代替道路の整備により利便性を確保したい。

○10年で完成できるよう知恵を出すべきである。

⇒10年では年間の事業費の確保が厳しいということで見直しを行っている。少しでも事業期間が短くなるようJRと協議し、地域の方々ができるだけ早く事業効果を享受できるよう頑張りたい。

○東西幹線道路の整備に期待しているので早く整備してほしい。

⇒1日でも早く実施したい。

○的場川西踏切は閉鎖すべきではない。高架を下す場所をもう少し先に延ばすなどして、的場川西踏切のところを3mくらいの高さを確保して、乗用車が通行できるようにすれば良い。全線高架した場合と今回の計画で事業費がどれくらい違うのか、比較検討したのか。

⇒Ⅱ期施工で全線高架することは検討しているが、道路と違い、Ⅰ期区間で造った斜路部分をかなり壊す必要が生じ、100億円以上の追加の事業費が必要となることから、実施困難と判断している。

○この案しかできないということであれば、なぜ住民の意見を聞くのか。

⇒見直しの修正検討を始めた経緯は、船越地区から請願などがあり、元の「見直し案」では船越のまちづくりが駄目だという意見をいただき、何とか今回改善し、地元に便利に利用していただけるような案を考えるため、この1年間検討してきた。前回の案に対する意見に対し、真摯に向き合って、今回の案を考えたものである。決して意見を聞いていないわけではない。これからも意見を聞かないわけではなく、事業期間が長すぎるといった意見については、しっかりと対応していきたい。これまでの船越地域の意見に対し、できるだけ対応できる案はこれが最大限の案であると考えている。

○説明会に参加している人以外にも船越地区には沢山の人がおり、今までいろんな人の意見を聞いてきたが、みんなが反対しているわけではない。そこは誤解のないようにしてほしい。なるべく一日でも早く計画を進めてほしい。重ねて言うが、みんなが反対ではない。

○騒音や電波障害などの環境対策をしてほしい。

⇒工事前にしっかりと調査し、必要な対応をしたい。

○本事業は、二転三転し、船越地区を二分するような進め方について、猛省してほしい。危険な踏切を子供達が横断していることや、緊急車両が足止めされている現状を早く改善してほしい。「見直し修正案」は、船越地区が変わっていくイメージが持てる計画だと思う。的場川西踏切を利用する人には申し訳ない気持ちでいっぱいであるが、船越地区のために、未来志向で今の子供達が大人になった時、褒められるような船越のまち全体を考えていければと思う。市には本気でがんばってほしい。

⇒本事業の見直しにあたっては、長年にわたり船越地区の皆様に心配をかけてきた。そうした経緯を踏まえ、市も船越地区の将来のためのまちづくりをしっかりとできるような計画にしなければならないということに思い至り、今回検討してきた。今後は、道路の使い方や高架下空間の使い方、将来の船越地区のまちの在り方といったことを地元と議論していきたい。事業に早期に着手し、できるだけ早く完成できるよう、頑張っていきたい。

○もう少しなので全線高架できないのかと思うが、致し方ないのか。現在、踏切があるおかげで大変不便な思いをしている。20年後は生きていないので、未来志向で若者に託したいが、今回の案は、75%であり、合格点ではないということは言っておきたい。

⇒この案が満点とは思っていないが、踏切を除却し、地域の安全を確保するということは、今回の案で達成できていると思っている。これまで通行できていた踏切が閉鎖されることについては、申し訳ないが、将来の船越のまちづくりを考え、踏切をすべて除却し、新しい道路の使い方によって、まちづくりを考えていくことについて、早く地元と議論していきたい。そのために、事業の推進には力を尽くしたい。

○国は、「当初計画」1,050億円に必要な予算を確保しているのに、県・市が対応できないと言っている。20年、30年経過した時、「なぜ、ここで鉄道高架を下したのか。」と聞かれた際、どのように説明できるかを伝えていく必要がある。この問題について、検討された先人の方に対し、どうか良い方向で、将来に渡って良い説明ができるような進め方をしていただきたい。

⇒国が、「当初計画」に必要な予算を確保しているわけではなく、状況にあわせて対応されるものである。本事業は、県・市の財政状況が厳しいことから、「当初計画」での実現は困難ということで見直しを行っている。残念ながら、Ⅰ・Ⅱ期に分けたが、少し時間をかけて着実に実施していく方法を今回選択した。これで進めさせていただきたい。市として、しっかり事業を進めていく意志は持っており、今回の説明で理解いただき、早く事業に入り、事業効果を早く地元へ届けたい。

3 閉会あいさつ

長年にわたり、船越の方には心配をかけ、また、色々議論し、提案もいただき、ここまでやっときた。この案を早く実現させて、船越地区に安全と利便性を早く享受できるよう市としてもしっかりと取り組んでいきたい。

今後は、工事に向け、逐次住民の意見を聞きながらしっかり検討し、事業を進めていく。

(両日とも拍手の中、閉会)